

## 橋梁長寿命化修繕計画について

市では、市道橋の維持管理を効率的・効果的・計画的に行い、将来的な財政負担の低減と平準化を図るために「橋梁長寿命化修繕計画」を今年6月に策定した。

### 【橋梁長寿命化修繕計画概要】

#### 1. 背景

高度経済成長期に建設した橋梁の、高齢化・老朽化が急速に進行する。

今後は、これまで以上に補修や架替え費用が増大し、財政負担になることが予想される。

参考 橋長15m以上の市道橋で建設後50年以上経過している橋

現在：8橋(4%) 20年後：92橋(4.2%)

#### 2. 計画策定対象橋梁

市が管理する市道橋(1,342橋)のうち、橋長15m以上(219橋)で、鋼製橋で建設後8年以上、コンクリート橋で建設後15年以上経過した163橋について今回策定した。

	豊岡	城崎	竹野	日高	出石	但東	計
全管理橋梁数(計画対象橋梁数)	393	61	125	285	214	264	1,342
うち既計画策定橋梁数	0	0	0	0	0	0	0
うち今回計画策定橋梁数	40	3	19	42	17	42	163

#### 3. 基本方針

##### (1) 点検の徹底

道路橋の架設年度(経過年数)や立地条件などを十分考慮し、「道路橋に関する基礎データ収集要領(案)」に基づき定期的に点検を実施し、橋梁の健全度を把握する。橋梁を良好な環境状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロール、排水部分の清掃などの実施を徹底する。

##### (2) 補修計画の立案

点検結果を基に予防的な補修を実施することでライフサイクルコストを平準化し、補修や架替えに係る費用の大規模化および高いコスト化の回避、縮減が図れる補修計画を立案する。

##### (3) データの蓄積

点検結果や補修履歴を蓄積し、補修方法の実施結果を検証することで、より効率的、効果的な補修計画を検討する。

##### (4) 計画の策定

管理する全道路橋の点検を実施し、『長寿命化修繕計画』を策定する。

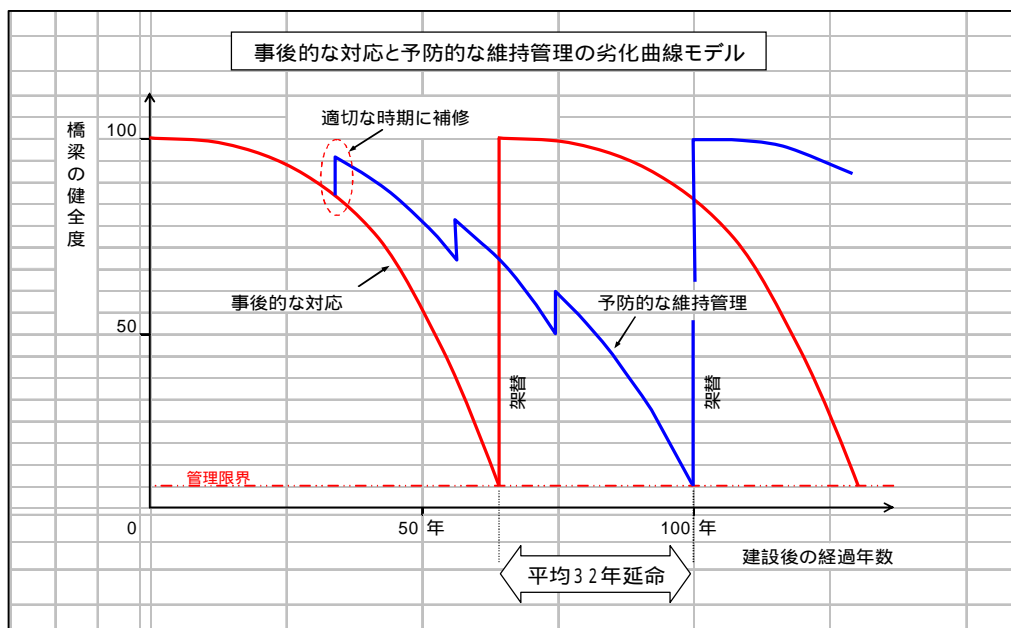
#### 4. 計画策定による効果

計画策定対象橋梁163橋について、事後的な対応の場合と定期的に点検を実施するとともに適切な時期に補修を実施する予防的な維持管理の場合の橋梁の寿命とコストにつ

いて比較した。

予防的な維持管理に転換することにより、橋梁の寿命が平均32年延命でき、今後100年間で、158億円(約1.6億円/年)のコスト縮減が見込める。

	事後的な対応	予防的な維持管理	効果
平均寿命	29年	61年	32年延命
コスト (100年あたり)	452億円	294億円	158億円減



事後的な対応の場合、架替回数が100年間で1.7回、予防的な維持管理の場合1回

## 5. 補修計画

点検結果を基に損傷状態を点数化し、今後10年間に補修する橋梁の年次計画を、「別表」のとおり策定した。

計画を策定するうえで重要となる将来の劣化予測(いつごろ、どの程度の損傷状態になるか)については、現段階では基礎データ数が少なく信頼性は十分とは言えないため、今後も点検を継続して実施してくとともに補修履歴を蓄積し、より効率的、効果的な計画になるよう見直していく。

### 【参考】

県内で橋梁長寿命化修繕計画を策定している他市町等  
兵庫県、神戸市